

地方工業地域における「人気の田舎」の要因分析

福岡大学大学院 工学研究科 建設工学専攻 久多良木優希

1.はじめに

(1.1)背景

日本国内における人口動態は、東京圏への一極集中が加速する一方で、多くの地方部では人口減少とそれに伴う衰退が深刻な課題となっている。大都市への過度な集中は、地方の活力を奪うだけでなく、都市部での交通インフラの混雑や少子化を加速させる要因とも指摘されている。こうした中、持続可能な社会を維持するためには、地方部がいかにして「住まう場所」としての魅力を再構築し、定住人口を確保するかが重要な焦点となっている。

(1.2)地方への関心と「住みたい田舎」

近年、生活の質を重視する価値観の広がりにより、都市部から離れた自然豊かな地方部、いわゆる「田舎」での暮らしに対する関心が高まっている。¹⁾その代表例として、山口県宇部市は、雑誌等の「住みたい田舎」ランキングで上位にランクインしており、全国的にも「人気の高い地方部」として認知されている。しかし、こうしたランキング上の評価が、実際の居住利便性や人口の社会増減とどのように関連しているのか、定量的なデータに基づいた検証は十分ではない。

(1.3)目的

本研究では、高い人気を誇る宇部市を基準とし、地理的条件や産業構造、が類似している近隣の山口県防府市を比較対象として設定する。両都市における人口構造や居住環境を、都市構造可視化サイト²⁾を用いて可視化・分析することで、人口を惹きつける「人気の田舎」を構成する空間的・社会的要因を明確化することを目的とする。

2.分析対象地域について

(2.1)宇部市の概要

宇部市は山口県西部に位置し、面積は約 288 km²³⁾、人口は約 15.3 万人⁴⁾である。かつては炭鉱の街として栄え、現在は化学工業を中心とした工業都市である一方、中心部には「ときわ公園」などの広大な緑地を有している。

(2.2)防府市の概要

防府市は山口県中南部に位置し、面積は約 189 km²、人口は約 11 万人である。防府天満宮を中心とした歴史ある街並みと、マツダ等の自動車関連産業が盛んな工業都市としての側

面を持つ。宇部市とは、瀬戸内海に面した工業都市であり、人口規模も近いという類似点を持つ。

3.東京都と地方部における人口動態の比較分析

(3.1)東京都の現状

東京都の総人口は約1,400万人⁵⁾を超え、日本の総人口が減少局面にある中で今なお増加している。特に、進学や就職を機とした10代後半から20代の若年層による転入超過が顕著である。都市構造可視化サイトにより東京都心部を確認すると、人口が大きく増えていることが確認できる(図-1、図-2)。

一方で東京都は合計特殊出生率が0.96⁶⁾と全国最低水準である(図-3)。人口が流入し続ける一方で、その地で次世代が育たないという現状は、日本全体の人口減少を加速させる要因となる。この過密による弊害は、地方部が持つ「ゆとりある居住環境」の価値を再評価する大きな動機となっている。



図-1：2000年の東京都中央区の人口分布

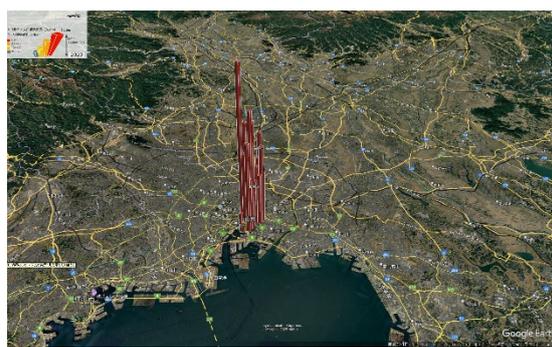


図-2：2020年の東京都中央区の人口分布

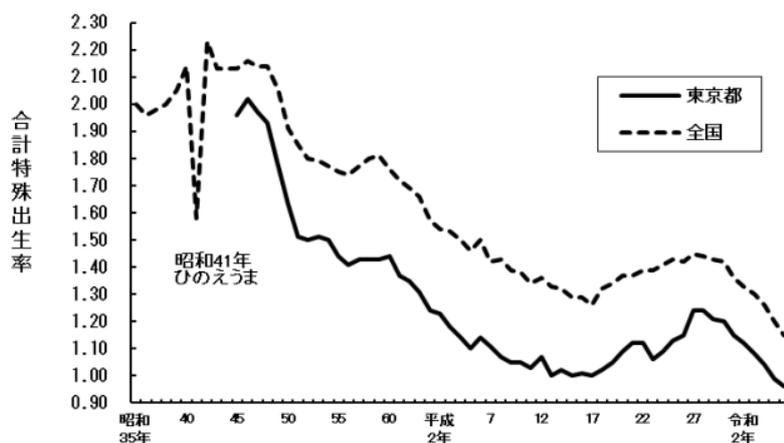


図-3：合計特殊出生率の年次推移（東京都、全国）

(3.2) 地方部の現状

宇部市や防府市のような地方部は、総人口こそ減少傾向にある（図-4、図-5）ものの、出生率は東京圏より高い。東京が「過密による持続可能性の危機」に直面しているのに対し、地方部は「過疎による機能維持の危機」に直面している。したがって、宇部市が「人気の田舎」として評価される背景には、東京のような過密ストレスがなく、かつ日常生活に必要な機能が維持されているという、「都市と田舎のハイブリッドな居住性」があると考えられる。

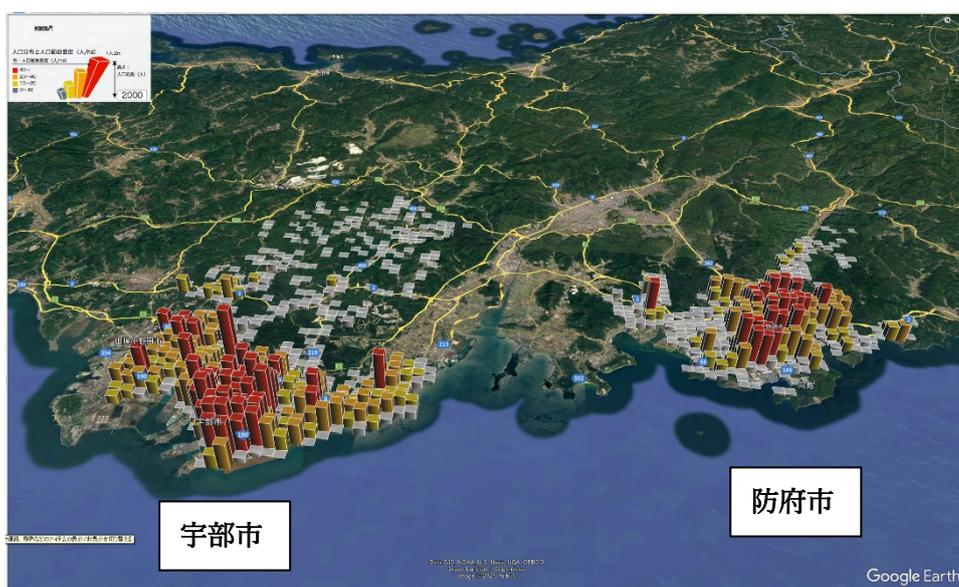


図-4：2000年の人口分布（宇部市、防府市）



図-5：2020年の人口分布（宇部市、防府市）

4.宇部市と防府市の住居環境の比較と要因分析

(4.1)年少人口総数の比較

地域の持続可能性や子育て環境の魅力を測る指標として、0歳から14歳までの「年少人口総数」に着目し、両市の分布を比較した(図-6、図-7)。両市とも、郊外に近年開発された新興住宅地において年少人口割合が高く、旧来の中心市街地において低いという、地方部共通の傾向が確認された。防府市の方がやや年少人口総数が多いことがわかったが、大きな差は確認できなかった。また、地方人口の減少にあたり、年少人口総数も減少していることを確認した。

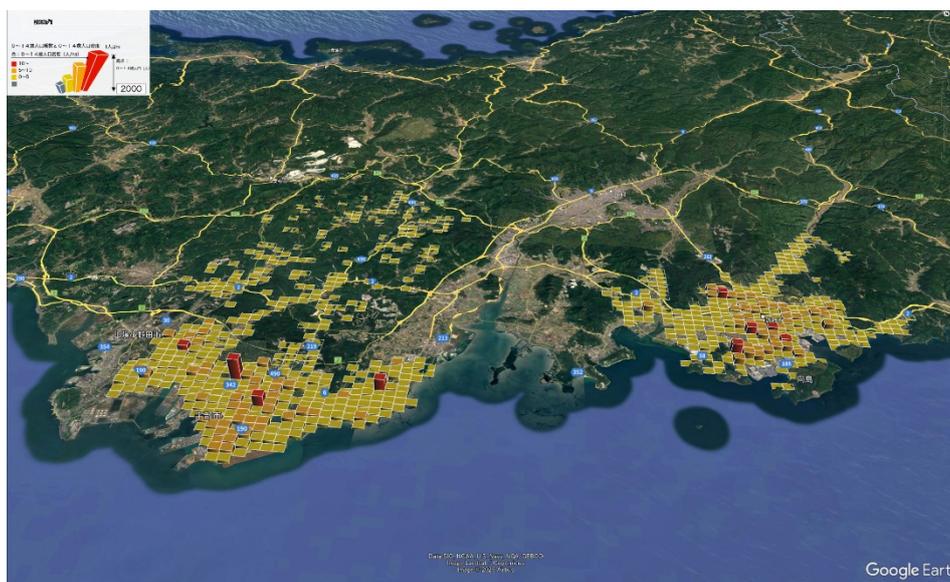


図-6：2000年の年少人口総数（宇部市、防府市）

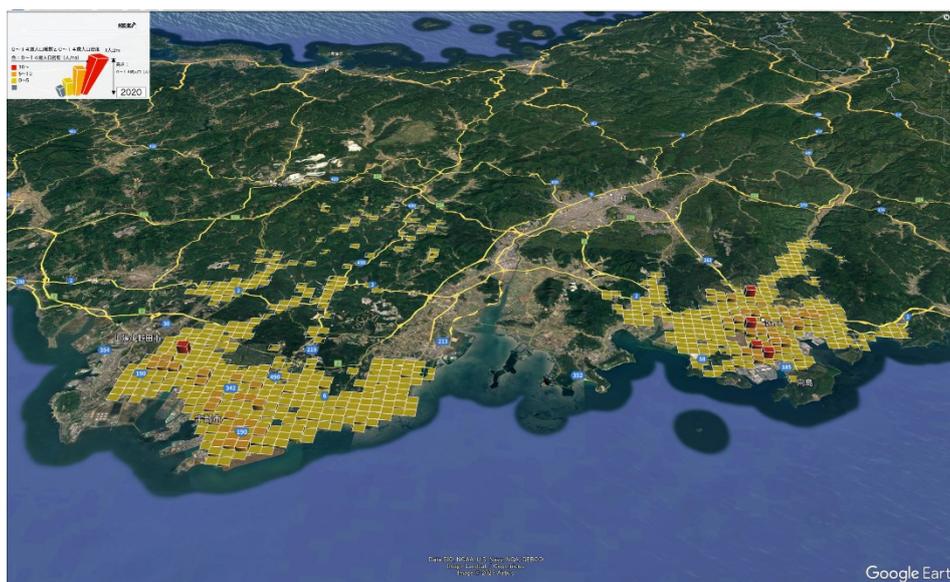


図-7：2020年の年少人口総数（宇部市、防府市）

(4.2)公共交通利用圏の比較

生活の利便性を左右する交通インフラについて、公共交通利用圏に住む人口総数を比較した(図-8)。宇部市は、宇部線や山陽本線の駅が市街地各所に点在することに加え、宇部空港へのアクセスを補完するバス路線網が密に構築されている。防府市と比較して、自家用車に過度に依存せずとも日常生活を維持できる「公共交通利用圏内」に住む人口の比率が高く、これが特に若年層や高齢者にとっての住みやすさにつながっていることが明らかとなった。

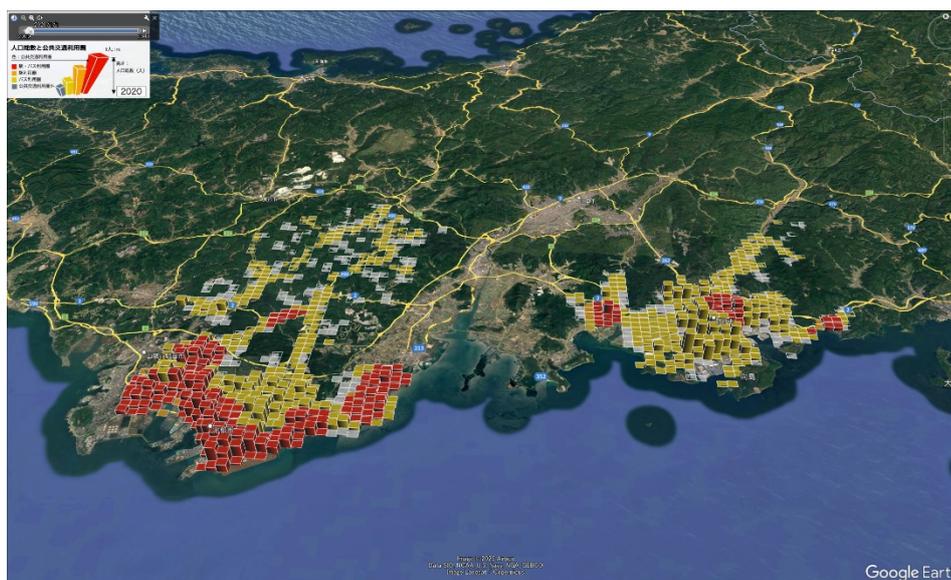


図-8：2020年の公共交通利用圏と人口分布の関係（宇部市、防府市）

(4.3)全産業事業所数の比較

地域経済の規模と雇用の選択肢を示す指標として「全産業事業所数」を比較した(図-9)。宇部市の事業所数は防府市を上回っており、特に中心市街地から主要幹線道路沿いにかけて多いことがわかった。事業所数が多いことは、地域内での就業機会が豊富であると同時に、商業・サービス業の多様性が高いことを意味する。防府市も自動車関連の製造業が盛んではあるが、宇部市はより多角的な産業構造とサービス機能を持っており、これが「利便性の高い田舎」としての魅力の底上げしている要因と言える。

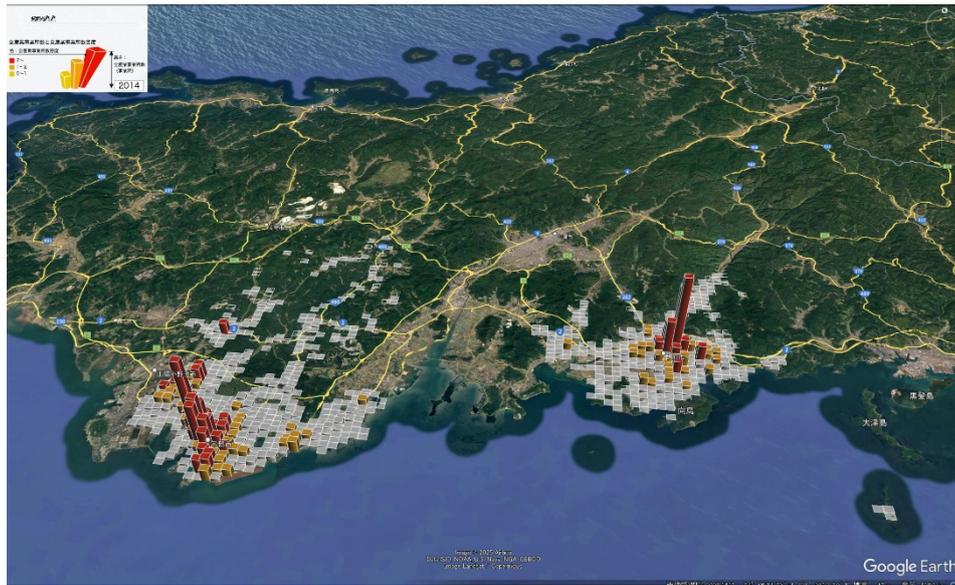


図-9：2014年の全産業事業所数（宇部市、防府市）

(4.4)医療・福祉機能の比較

最後に、安心な暮らしの基盤となる医療施設分布として、両市の病院数と一般診療所数を比較した(図-10)。その結果、宇部市において顕著な集積が確認された。山口大学医学部附属病院を中心とした高度医療機関の存在が、単なる「田舎」にはない、都市的な安心感を提供していることがデータからも裏付けられた。

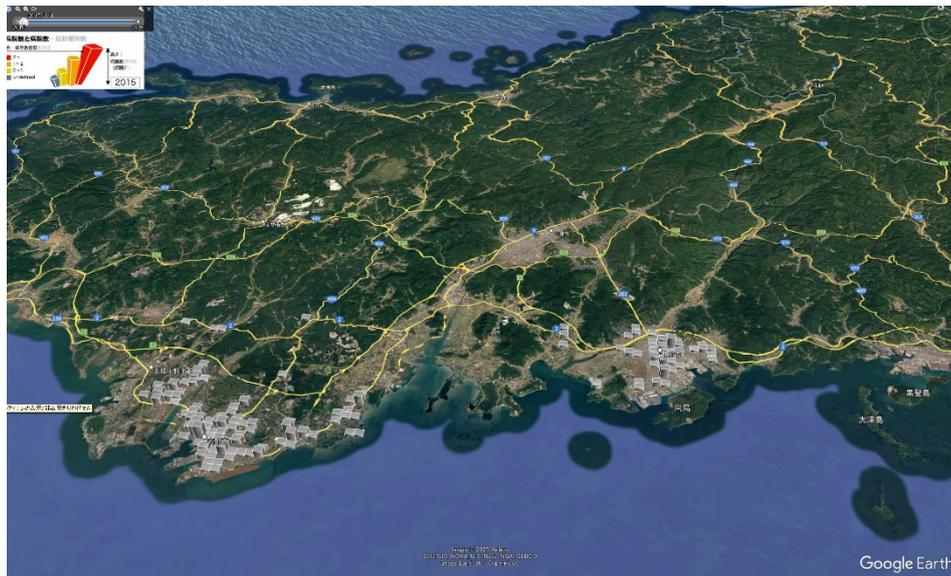


図-10：2015年の病院数と一般診療所数（宇部市、防府市）

5.まとめ

人口減少が進む地方部の活性化指標として「人気の田舎」に着目し、その要因を客観的なデータから探ることを目的とした。具体的には、雑誌ランキング等で高く評価されている宇部市を基準とし、立地条件の似た防府市と比較を行った。都市構造可視化サイトを用いた分析の結果、「子供の多さ（年少人口割合）」には両市で大きな差はなく、「移動のしやすさ（公共交通）」「医療の安心感」「雇用の選択肢（事業所数）」という3つのインフラ・機能面において、宇部市が優位にあることが明らかになった。

今回の分析を通して、宇部市が「人気の田舎」として選ばれている理由は、単に自然が豊かであるといった「田舎らしさ」だけではないことが分かった。むしろ、「田舎のゆとりある生活環境をベースにしながら、都市部と同等の医療や仕事の基盤を持っていること」こそが、移住者や住民に選ばれる本当の理由ではないかと考える。地方部において人口を維持するためには、イメージ戦略だけでなく、生活の安心を支える具体的な都市機能をいかに維持し、可視化していくかが重要であると強く実感した。

自分の地元である宇部市が、これからも「選ばれる街」であり続けるためには、今回強みとして見えた公共交通網を維持し、車がなくても一生安心して暮らせる仕組みをさらに強化していく必要があると感じた。この分析結果を、今後の都市計画の学習や、地元への理解を深める材料として活かしていきたい。

参考文献

1) 国土交通省：参考データ集

<https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001712109.pdf>

2) 都市構造可視化計画：都市構造可視化計画ポータルサイト

<https://mieruka.city/>

3) 山口県：山口県の概要 <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/uploaded/attachment/36208.pdf>

4) 山口県：山口県人口移動統計調査（令和7年10月分月報）

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/22/218792.html>

5) 東京都の統計：東京都の人口（推計）

<https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/jsuikai/js-index.htm>

6) 都庁総合ホームページ：令和6年度東京都人口動態統計年報（確定数）のあらまし

https://www.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/tosei/20251111_05_01